

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572210110		
法人名	有限会社 湯の里		
事業所名	グループホーム 茜		
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字街道東222番地6		
自己評価作成日	令和1年10月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和1年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に恵まれた住宅地に立地しており、ホールの窓からは四季折々の花々やジュンサイ沼などを眺めることができる。広い敷地には花壇や畑、果樹の木があり梅や柿、栗等の収穫を楽しみ交流を図っている。
 年間の活動計画では外出の機会を多くし、お花見や紅葉見物の際にはお弁当を持参したり外食、買い物なども楽しんでいる。利用者さんと一緒に過ごすことで信頼関係を築いている。
 また、当事業所で交流会を開催し家族の方や地域のボランティアさんにも参加して頂いている。鍋っこや運動会を行い、地域に開かれたホームを目標にしている。
 歌の好きな入居者さんが多く、ホーム内ではいつも歌声が聞こえ穏やかに過ごされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「笑顔で楽しく生き生き」という目標の通り、歌声や笑い声が聞こえる環境の中で、職員も利用者も楽しそうに過ごしている様子が見られている。大変な部分は職員間でカバーするチームワークが自然と出来上がっており、職員の協力体制がホームの利用者にも伝わり、利用者の表情や態度から満足度が窺えている。
 普段から職員内で話し合う場があるため、利用者の変化にも迅速に対応できている。「温かいものを温かいうちに提供したい」と話す職員の愛情のこもった食事が食卓に並べられており、掃除は朝・昼・夕と3回行われることで室内に臭いもなく、床は適宜ワックスがけを行いピカピカしている。食事や掃除等の基本的なことを1つ1つ大切にすることで感染症患者はほぼなく、利用者の快適な生活空間が提供されている。
 利用者にとっても職員にとっても、居心地の良い環境を整えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念とホーム独自の目標を玄関やホーム内に提示しいつでも確認できるようにしている。また、全職員は理念を共有し日々の支援に取り組んでいる。	企業理念とホーム独自の目標が、職員の目に入るところに掲示し実践されている。ホーム内では「笑顔で楽しく生き生きと」という目標の通り、職員と利用者が楽しそうに過ごしている様子が見られた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの畑は、地域の方に協力を頂きながら育て収穫している。また、近隣には「茜だより」を配布して行事への参加を呼びかけている。	ホームにある畑を近所の方がトラクターで耕してくれたり草取りをしてくれたり、地域とのつきあいが日常的に行われている。利用者はその様子を見たり、色づいた野菜を教えてくれたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	ホームの周りを散歩しながら地域の人々と交流し、認知症ケアについて情報発信している。また、中学生の職場体験では、認知症の人の理解や支援の方法を伝えることができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者状況や取り組み状況、意見交換を行い、皆さんからのアドバイス等を頂きながらサービスの質の向上に努めている。	会議には地域包括支援センター、社会福祉協議会職員、民生委員、家族の方等が出席している。会議では利用者の情報を伝えたり、認知症予防に関する情報を頂いたり情報交換が行われており、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者を直接訪問したり、電話等で情報交換している。また、アドバイスを頂くことでケアサービスの向上に役立たせている。	三種町役場の福祉課や地域包括支援センターの職員と主に電話で情報交換を行っている。管理者が以前、社会福祉協議会のヘルパーを行っていたことが強みになっており、連携はスムーズで制度上の不明な事などがあれば相談し助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアを実践しており、禁止の対象となる行為について理解している。また、事業所独自のマニュアルを整備しており、いつでも確認できるようにしている。	身体拘束適正化検討委員会を設置し、3カ月に1回開催し、マニュアルも作成されている。身体拘束について気を付けるべき点を職員にケアスタッフ会議の場で伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全職員は勉強会等で学ぶ機会があり、虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員は独自に勉強会を行い、学ぶ機会を設けている。権利擁護制度を利用している方がおり、関係者との連絡を密にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の凍結、解約、改定等の際は利用者や家族に十分に説明を行い理解、納得の上で捺印を押しいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に設けている「意見箱」や家族との面談、電話連絡等を活用しながら、家族の要望を聞き取り運営に反映させている。	ホームに「意見箱」を設置しているが、今のところ意見が入っていたことはないとのこと。家族には何かあればすぐに連絡しており、面会時等に家族から意見や要望があった場合は、「家族・ホームからの伝言綴り」に記載し、職員間で回覧した上でケアスタッフ会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議で意見や提案を話し合い、運営にかんする事は管理者会議の場で代表に伝え意見の反映を図っている。	会議の場のみならず、職員が普段からいつでも意見の言える職場環境となっている。そのため、どこにも異動したくないと話す職員が多かった。職員からの運営に関する意見は管理者会議で、管理者から代表に伝わり、意見の反映がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が向上心を持って働けるよう給与水準や労働時間等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員一人ひとりの力量を把握しスキルアップに繋げている。また、資格取得にむけて積極的に勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間で行事や勉強会を行う事で交流できている。また、交流を通してサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は本人との信頼関係を築く為、困っていることや要望等を傾聴し安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は家族が困っていること、要望等に耳を傾け安心して頂けるよう努めている。また、施設内を見学して頂き安心して生活できるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事や意欲を大切にしながら、家族のような関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には家族の方にも参加をお願いしている。また、いつでもホームに立ち寄れる雰囲気づくりを心がけている。職員、家族が共に本人を支えていけるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入居しても馴染みの人や場所との関係を大切し支援に努めている。家族の他、友人や親類の訪問も多くなっている。	入居する前から利用していた馴染みの美容院やお墓参り等に家族の協力を得て外出している利用者もいる。親戚の方や前に勤めていた会社の友人が訪ねてくれることもあり、制限することなく受け入れ、関係継続に努めている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう常に目配り、気配り、会話を努めている。また利用者同士の関わり方に見守りを行っている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退所した後も、必要とされる時は相談や支援に努めている。これまでの関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや意向の理解に努めている。また個々の希望を受け入れながら援助を行っている。	穏やかな利用者が多く、思いや意向を進んで伝えてくれる機会が少ないため、一人ひとりの思いを把握するのが難しいとのこと。職員が選択の機会を設け、聞き取りすることで思いや意向を確認している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に馴染んだ食器、写真、家具等を持ってくる方もいる。ホームではそれまでの生活環境、思い出を大切にしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの過ごし方や心身状態の把握に努めている。野菜の下処理、洗濯たたみ等本人の有する力が発揮できるよう努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や担当者会議では援助内容の検討を行い介護計画の作成を行う。本人がより良い暮らしができるよう全職員が情報を共有し現状に即した介護計画を作成している。	本人の意見を聞き取りながら、月1回スタッフ会議を行い、ケアカンファレンスも行われている。担当制を採用しており、会議で出た担当職員の意見も介護計画に反映されている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はペンの色を変え分かりやすいよう工夫している。職員間で情報を共有できる体制を整えており、介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会で支援している地域福祉権利擁護制度を利用している方がおり、安心して毎日を過ごすことができている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に基づき、かかりつけ医やかかりつけ薬局を利用している。体調の状態や内用薬の変更時等について情報交換を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	町内の個人病院がかかりつけ医となっているが、本人や家族が希望すれば、入居以前から通っていた病院を引き続き利用している。かかりつけ薬局からは処方薬を届けてもらっている。その際、薬の詳しい説明があり、専門家からのアドバイスを頂くことができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の体調管理について訪問看護師に相談し、適切なアドバイスをいただいている。利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に病院関係者と連絡を密にし、情報交換や相談を行っている。本人が安心して治療できるよう関係づくりに努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から利用者や家族と話し合い、事業者でできる事を十分に説明し理解して頂くよう努めている。また看取りに関する指針も整備している。	看取りは可能であり、「重症化した場合の対応および看取りに関する指針」を整備している。今のところ看取りを行ったことはなく、重症化した場合には家族と相談して医療につなぎ連携を図っている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、マニュアルを整備し全職員が対応できるよう努めている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策は会議等で周知行っている。マニュアルを整備しており対応できるようにしている。年2回は消防署の立ち合いで避難訓練を行っている。	消防署立ち合いの避難訓練では、ヘルメットにライトをつける、避難時にはマスクをつける等の指摘があり実行している。また、連絡網の訓練や消火器の訓練も実施し、緊急時の対応に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重しプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	トイレ利用の際にはカーテンを閉める、着替えは居室でする等配慮を怠らないようにしている。排泄の際には声かけの仕方を工夫し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聴き入れ、日常生活の中で表現でき、自己決定できるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて生活を保ち、どのように過ごしたいか、希望を取り入れた支援をしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあわせた服装をこころがけ、身だしなみを整えている。利用者が馴染みの美容院等を利用している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜を献立に取り入れ、個人の嗜好や体調に合わせて調理を行っている。野菜の下処理、食事、後片付けを職員と一緒にやっている。	訪問時の昼食では、「温かいものを温かいうちに提供したい」と話す職員の愛情のこもった食事が食卓に並べられていた。利用者が「おいしい、おいしい」と口々に話しながら食事が進んでおり、「この食事は何を食べてもおいしい」と、昼食を残す利用者はいなかった。なるべく地元の食材を使い、地産地消を心掛けている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を記録している。利用者が体調維持できるよう配慮している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。援助の必要な利用者には職員と一緒に、義歯の消毒は専用の薬剤を使って週3回洗浄し、清潔保持に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、安心して排泄できるよう、プライバシーに配慮している。自立排泄にむけた支援に努めている。	排泄表に一人ひとりの排泄をチェックし、パターンを把握しながらさりげない声かけでトイレに誘導している。プライバシーに配慮しながら付き添い、利用者が自立排泄できるよう見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防する為に食事の工夫や運動、水分補給に努めている。解消されない場合は医師に相談し薬の調整を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日バイタル測定を行い健康状態を把握し、利用者の希望に合わせて入浴を行っている。利用者がゆったりと入浴を楽しめる環境づくりを心がけている。	基本的には日曜日以外の午前中に入浴しているが、いつでも入浴できる体制になっている。入浴を拒む利用者はおらず、声をかけると「ああ良かった」と喜んで入浴してくれるとのこと。入浴の前にはバイタル測定を行い健康状態を把握し、ゆっくりと入浴を楽しめる工夫がなされている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう日中の過ごし方を工夫している。休息も安心して休めるよう支援している。夜間眠れない方は医師に相談し薬を処方、服薬をしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ケースを用意し誤薬を防ぐ為の工夫をしている。薬ファイルには個々の薬名、働き、副作用等が記載され、職員は理解に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望や思いを尊重し、できる範囲での役割や生活歴を活かした支援を行っている。嗜好品や楽しみ事を持っていただけるよう配慮している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って日常的に散歩やドライブに出かけている。季節を感じて頂けるよう年間の行事計画を立て、実施している。家族の方々にも周知し交流会を行っている。	先月、家族の方々にも来ていただき、交流会を実施している。交流会には5家族が来てくれ、ホールでの運動会や昼食会を楽しんだ。花の好きな利用者が多く、季節の花々や紅葉、釜谷浜の砂像を見にでかける等、年間の行事を計画して実行している。天気の良い日には散歩に出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて、預り金として保管しているお金を本人に渡して払ってもらうなどの支援をしている。また、その旨を家族に伝えている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話が入ったり、本人が電話をかけたいとの希望があれば支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の空間からは、広い窓が設置され外の景色や日光浴等を楽しめる。廊下には天窓が2か所設置され明かりを取り入れている。施設内には利用者の作品や写真等を飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。 また、室内の温度を一定に保つよう整備されている。	室内は床暖房が完備されており、外の寒さとは対照的に適度な気温で保たれている。また、朝・昼・夕と3回掃除が行われ、室内に臭いもなく床は適宜ワックスがけを行いピカピカしており、快適な生活空間が提供されている。利用者の居室には水を入れたバケツを準備し、加湿器で湿度にも気を配ることで、感染症患者はほぼ出ていない。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファが設置され、利用者同士や職員と一緒にくつろぎながら過ごすことができる。また、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、馴染みの食器や衣類等を持ってきて頂き、居心地よく過ごせるよう配慮している。	各居室にはベッドとエアコン、床暖房が完備されている。入居の際には使い慣れた食器や衣類等を持ってきて頂いている。習字の得意な利用者の居室には自作の書が飾られている等、本人が居心地良く過ごせるよう工夫が施されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、洗面所は場所の表示をして混乱のないようにしている。利用者が安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		